



「言葉の力」を中核とした学校づくり ③

子供をめぐる諸問題への対応

◆ いじめ、不登校、暴力行為など、子供をめぐる問題が山積しています。それらの要因の一つとして、言葉を介した意思の疎通が十分に図れていないことが挙げられます。言葉による伝え合いの充実は、喫緊の課題です。

◆ 子供同士、子供と大人の人間関係の在り様は、言葉と密接な関わりがあります。相手や場に応じた言葉遣い、挨拶や感謝の言葉、互いを認め合い励まし合う言葉など、話し言葉の運用能力を子供はもとより教師も高め、活用していくことが重要です。

◆ 近年の子供が関わる痛ましい事件については、人間としてもつべき感性・情緒を理解する力の欠如に起因するとの指摘があります。感性・情緒を理解するとは、他人の痛みを自分の痛みとして感じる心情等のことです。

こうした力は、自然に身に付くものではなく、豊かな体験と言葉の教育を積み重ねることで、体得されるものです。子供の言葉の力を育成するねらいの一つは、豊かな心情や教養を培うことにあります。

◆ 学習面では、子供たちの思考力・判断力・表現力等の着実な育成を図るため、観察・実験やレポートの作成、論述といった各教科の知識・技能を活用する学習活動の充実が求められています。これらの学習活動の基盤が「言葉の力」であることは、言うまでもありません。



イチローの助言

大リーガー 大谷翔平

「自分の才能を信じたほうがいい」というイチローさんの言葉のおかげで自信を持ってましたし、その自信を持ってグラウンドに入って行けるようになったのは、あの言葉がきっかけです。

出典：「大谷翔平は、こう考える」（桑原晃弥著 PHP文庫）

※ 思うような結果が出ず、自信を失いかけていたメジャーリーグ1年目。大谷選手はイチローを訪ね、1時間ほど会話を交わしています。